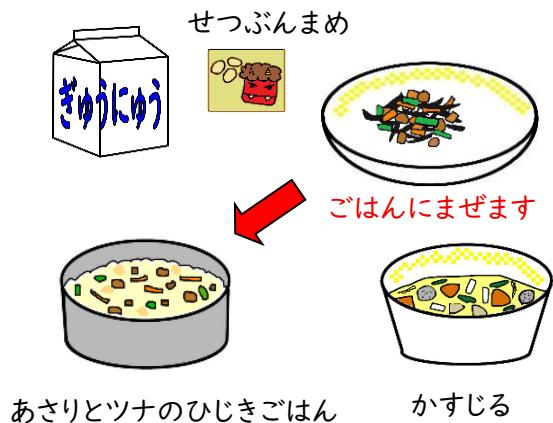


がつ か か
ぎょう じ しょく せつぶん こんだて
2月3日(火)は、行事食「節分」献立です。

こんだて しょうかい
献立の紹介



季節ごとの行事やお祝いの日に食べる特別な料理を「行事食」といいます。節分は、立春の前日のことで「季節を分ける」という意味があります。明治時代のはじめ頃まで使われていた旧暦の場合、立春が一年の始まりとされ、大切な行事でした。節分では、鬼に見立てた災いや病気を追い払い、福を呼ぶために豆まきをします。

令和8年は「立春」が2月4日なので、「節分」は2月3日です。

現在は、国立天文台の観測により「立春」が決められています。



「ひいらぎいわし」



節分の日に家の入口に「ひいらぎの枝」と「焼いたいわしの頭」を飾る昔からの風習である「ひいらぎいわし」を知っていますか？

鬼は病気や災いのしるして、ひいらぎの葉のトゲと、いわしのにおいて鬼を追い払うと考えられていました。



「ひいらぎいわし」には、「家族が元気で過ごせますように」という願いがこめられています。

「豆まき」



昔の人は「鬼は外！福は内！」のかけ声とともに、豆まきをすると、鬼を払い、福を呼び込むと考えていました。鬼というのは、病気や災いをあらわしています。また、豆まきの炒り大豆を「福豆」などと呼んで食べることで、健康と無事ねがを願います。



節分豆を食べて今年一年を元気に過ごしましょう。